



木下健二

ふるさと津山を子どもや孫たちへ引き継ぐためには

質① 少子高齢化が進む中、これまで脈々と続く歴史を持つ津山市を子どもや孫にどのように受け継いでいくのか。

答① 津山市では「住み続けたいまち津山」を実現していくため、雇用の確保、子育て環境の整備、住まい・医療福祉の環境整備など実施していく。

質② 空き家を活用した地域のサービスセンターづくりや安心・安全のまちづくりについて、どう考えるか。

答② 第6期高齢者保健福祉計画の策定に当たり市民の皆さまのご意見をお聞きし、地域のサービスセンター機能を含め、空き家などを活用した新しい地域支援の構築に向けて議論を深めていく。

学習に集中できる教室環境の整備を

質① 小・中学校の教室の温度の調査状況と今後の方針は。

答① 昨年10月にアンケート調査を実施、各校の工夫の状況をまとめ、情報提供した。学校やPTAから空調設備設置の要望も出されており、耐震化完了後の大きな課題の一つと認識している。

質② 「子ども・子育て支援新制度」に関して、審議会のニーズ調査の結果、「保育士の確保」はどうか。

答② 放課後児童クラブ、病児・病後児保育など就労支援に関わるニーズが高い。保育士の有資格者の就職支援セミナーで16人が再就職に結びついている。



黒見節子

質① 昨年来のアベノミクスにより、自動車、小売関連を中心に業績が急回復し、設備投資も順調に伸び、脱デフレの兆しが確実に見えているが、市内への企業誘致の現状はどうか。

答① 大企業、都市部では確かに景気回復がみられるが、地方の中小企業はまだ厳しい状況。4月、産業・流通センターに新規企業誘致が決まり立地率が60.5%となった。

成長戦略の実行で産業振興を!!

質② つやま和牛のブランド化事業の内容はどのようなものか。

答② 子牛の繁殖から肥育まで津山で完結し、市内食肉センターで肉にし、A級食材つやま和牛として市内で消費する仕組みを作り、産業・観光振興を図るものである。



原 行則